

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

| | | | | |
|---------|--|-------|-------|-------|
| | 会派代表者 | 掛田 勝彦 | 経理責任者 | 増田 誠宏 |
| 視 察 議 員 | 掛田 勝彦 | | | |
| 期 間 | 令和3年10月 7日（木）～令和3年10月 7日（木） | | | |
| 視 察 先 | 自宅での■オンラインセミナーにて聴講 視聴サイトの URL から、Zoom をダウンロードのうえ開始しました。 | | | |
| 視 察 用 務 | ギガスクールの現状と課題とこれからを探るオンライン研修会 いま必要なのはデジタル・シティズンシップ ～規制ではなく、ICTでよき社会の担い手になる教育とは～ | | | |
| 視察先対応者 | ローカル・マニフェスト推進連盟 | | | |
| 概要及び所見 | <p>研修の目的 本市においてもギガスクールが始まりデジタル・シティズンシップの重要性についての考えを深めるため受講した。</p> <p>(内容)</p> <p>基調講演 午後13:00～13:18 「地方議会から新しい社会、新たなデジタル社会をつくりだせ」 早稲田大学院名誉教授 北川 正恭 氏</p> <p>午後13:20～14:10 「学校のICT機器 現状の課題の本質とデジタル・シティズンシップ」 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター主幹研究員・ 准教授 豊原 晋平 氏</p> <p>発表 午後14:20～14:30 地方議会からの報告（話題提供：各地の現状と課題など） 西東京市議会議員 田村 ひろゆき 議員 戸田市議会議員 斎藤 直子 議員</p> <p>質疑応答 午後15:00終了</p> | | | |

今年の4月からギガスクールが始まり、いろいろな課題がみえてきた。全国の小・中学校へタブレットの導入が進められてきた中で、コロナ禍ということもあり一気に進み、様々な場面で活用され可能性を感じる一方でそのスピードがあまりにも早く、活用にあたっての課題に対して対応が難しいといった現状があるのではないだろうか。受講した結果、議会として何ができるのかを考える一考察となる内容だった。北川氏がいわれる、規制ではなく ICT でより良き社会の担い手になる教育とは何か。単に機器を整備するだけではなく、この先どうしていけば良いのかを、われわれ議会がどのようなテーマとして取り組んでいけば良いのかを考える機会にもなった。

以前から情報モラル教育の限界を感じるが多かった。世の中の情報量が格段に増大している中で、子どもたちに行動の自制を促すことに対して限界があると思っていたからだ。現行の情報モラル教育の全てとはいわないが、ややもすれば、抑圧的で管理主義的な生徒指導を是とする情報モラル教育になっていなかったらどうか。ICT の利活用の否定にもつながりかねないという感想をもっていた。

本研修で、豊原晋平氏の内容はとても興味深い内容であり、考え方を整理することにもつながった。核心の部分だが、なぜ、シティズンシップ教育が必要なのかであるが、効果的な能力は自然に身に付くものではなく、学んで実践する必要がある。デジタルネイティブの子どもたちだから、ほっといても自然に覚えるのではないかと錯覚を起こしてしまうと思われがちである。このことは、シティズンシップの市民とか社会の一員として理解ができているかといった話にも関係する。後は、格差の問題や恩恵を受ける人や受けない人、それによって不利益を受ける人が出てくると考えられる。シティズンシップ教育は底辺とか下部のところを保障していく教育でもあり、インターネットの落とし穴から身を守るだけではなく、有能なシチズンとして社会のために、デジタル技術を積極的に活用することを理解させていくことでもある。

情報モラルは個人に閉じておいて危ないことをしてはならないといった安全な教育といった側面が強いが、シティズンシップ教育はデジタル社会において善き社会の担い手を目指すものとして能動性の強い教育として認識するべきだと思った。情報化社会の中でデジタルツールを用いて責任ある市民として、社会参加をするための知識や能力がデジタル・シティズンシップであり、それを学ぶのがデジタルシティズン教育であるという話も納得できる内容だった。

議会として教育委員会や学校現場任せではなく、議員としてもシティズンシップという感覚や視点をもつことが必要であると感じた。その上にたつて議会としてもギガスクールに積極的に関与していくことで、周りに対する悪影響の部分、ハレーションを克服できるのではないかと感想をもった。